

【プレゼンテーション資料】

2010年9月中間期 連結業績のご説明

ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社
2010年11月15日

ソニーフィナンシャルホールディングス
代表取締役 副社長 の 藤方 でございます。

ただ今より、お手元のプレゼンテーション資料に沿って、
当社グループの 2010年度 第2四半期 連結業績について
ご説明いたします。

本日は、私のほかに、

ソニー生命 取締役 小泉

ソニー損保 執行役員 丹羽

ソニー銀行 執行役員 鈴木

も同席しております。

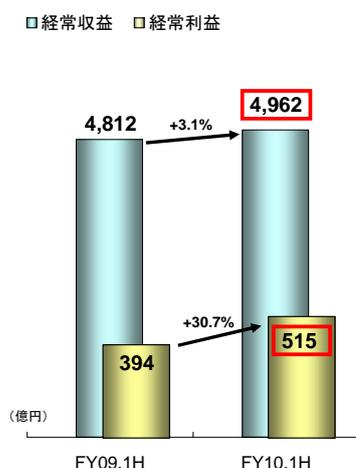
ご説明のあと、皆さまからのご質問をお受けしたいと思いますので、
どうぞよろしく願いいたします。

(それでは スライド2 をご覧ください)

免責事項:

このプレゼンテーション資料に記載されている、当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況などに関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されません。口頭または書面による見通し情報は、現在入手可能な情報から得られた当社グループの経営者の判断にもとづいています。実際の業績は、様々なリスクや不確実な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しに依拠することは控えるようお願いします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常に当社グループが将来の見直しを見直すとは限りません。また、このプレゼンテーション資料は日本国内外を問わず一切の投資勧誘またはそれに類する行為のために作成されたものではありません。

連結業績ハイライト



		(億円)	FY09.1H	FY10.1H	前年同期比	
生命保険事業	経常収益		4,326	4,445	+118	+2.7%
	経常利益		363	495	+131	+36.3%
損害保険事業	経常収益		339	371	+31	+9.2%
	経常利益		15	6	▲8	▲56.0%
銀行事業	経常収益		153	154	+1	+1.0%
	経常利益		14	12	▲2	▲17.6%
消去又は全社	経常収益		▲7	▲9	▲1	—
	経常利益		0	0	+0	+42.1%
SFHG連結	経常収益		4,812	4,962	+149	+3.1%
	経常利益		394	515	+120	+30.7%
	中間純利益		233	294	+60	+25.8%

		(億円)	09.9末	10.3末	10.9末	前年度末比	
SFHG連結	総資産		55,847	60,010	62,954	+2,943	+4.9%
	純資産		2,499	2,694	2,998	+303	+11.3%

※金額は単位未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

当社グループの連結経常収益は、生命保険事業と損害保険事業で増加、銀行事業でほぼ横ばいとなった結果、前年同期に比べ3.1%増加し、4,962億円となりました。

連結経常利益は、損害保険事業と銀行事業で減少したものの、生命保険事業で増加した結果、前年同期に比べ30.7%増加し、515億円となりました。

以上の結果、連結中間純利益は、前年同期に比べ25.8%増加し、294億円となりました。

次のスライド3には、各事業の業績要旨を記載しておりますのでご覧ください。

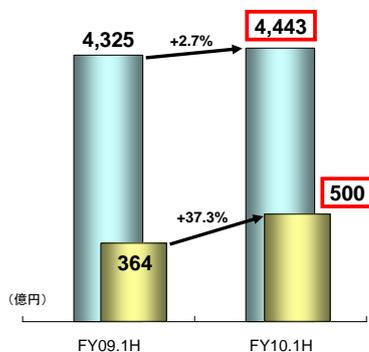
続きまして、スライド4から、各事業を担う3社の業績の詳細をご説明いたします。

- 生命保険事業では、新契約高および保有契約高の堅調な推移により保険料等収入が増加したこと、一般勘定における有価証券売却益や利息及び配当金等収入が増加したことにより、経常収益は増加。経常利益は、一般勘定における有価証券売却益の増加などにより、増加。
- 損害保険事業では、自動車保険を中心に保有契約件数が増加し、正味収入保険料が増加したことにより、経常収益は増加。経常利益は、経常収益が増加したものの、自動車保険の支払保険金の増加などにより、減少。
- 銀行事業では、経常収益はほぼ横ばいで推移。業務粗利益は、住宅ローン残高の増加にともなう貸出金利息の増加や、市場運用業務の損益改善などにより、増加。経常利益は、主にシステム関連費用を中心に営業経費が増加したことなどにより、減少。
- 連結経常収益は、前年同期比3.1%増加の4,962億円。連結経常利益は、前年同期比30.7%増加の515億円。連結中間純利益は、前年同期比25.8%増加の294億円。

ソニー生命 業績ハイライト(単体)



□ 経常収益 □ 経常利益



- ◆前年同期比 増収増益。
- ◆新契約高および保有契約高の堅調な推移により保険料等収入が増加。
- ◆資産運用収益は、有価証券売却益や利息及び配当金等収入が増加したものの、特別勘定資産運用損益が悪化したことから減少。
- ◆経常利益は、一般勘定における資産運用益の増加などにより、増加。

(億円)	FY09.1H	FY10.1H	前年同期比	
経常収益	4,325	4,443	+118	+2.7%
保険料等収入	3,393	3,710	+316	+9.3%
資産運用収益	915	711	▲204	▲22.3%
うち利息及び配当金等収入	329	423	+94	+28.7%
うち金銭の信託運用益	95	43	▲52	▲54.7%
うち有価証券売却益	97	244	+147	+150.6%
うち特別勘定資産運用益	381	—	▲381	▲100.0%
経常費用	3,960	3,943	▲17	▲0.4%
保険金等支払金	1,344	1,320	▲23	▲1.8%
責任準備金等繰入額	1,973	1,793	▲179	▲9.1%
資産運用費用	107	271	+164	+153.2%
うち有価証券売却損	53	7	▲46	▲86.8%
うち特別勘定資産運用損	—	214	+214	—
事業費	475	490	+15	+3.2%
経常利益	364	500	+135	+37.3%
中間純利益	217	289	+72	+33.4%

(億円)	09.9末	10.3末	10.9末	前年度末比	
有価証券残高	30,872	35,391	38,247	+2,856	+8.1%
責任準備金残高	37,872	39,856	41,635	+1,779	+4.5%
純資産額	1,732	1,913	2,224	+311	+16.3%
その他有価証券評価差額金	217	154	246	+91	+59.1%
総資産額	40,420	42,865	44,878	+2,013	+4.7%
特別勘定資産	3,318	3,736	3,672	▲63	▲1.7%

※金額は単位未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

まず、ソニー生命の、単体業績のハイライトをご説明いたします。

ソニー生命の経常収益は、新契約高および保有契約高の堅調な推移により保険料等収入が増加し、前年同期に比べ**2.7%**増加し、**4,443**億円となりました。

保険料等収入は、前年同期に比べ**9.3%**増加し、**3,710**億円となりました。

資産運用収益は、債券の入れ替えにともなう有価証券売却益や利息及び配当金等収入が増加したものの、特別勘定資産で運用損益が悪化したことから、前年同期に比べ**22.3%**減少し、**711**億円となりました。

一方、資産運用費用は、特別勘定資産で運用損を計上したことにより、前年同期に比べ**153.2%**増加し、**271**億円となりました。

経常利益は、一般勘定における資産運用益の増加などにより、前年同期に比べ**37.3%**増加し、**500**億円となりました。

以上の結果、中間純利益は、前年同期に比べ**33.4%**増加し、**289**億円となりました。

(次のスライドをご覧ください)

ソニー生命 主要業績指標(単体)



(億円)	FY09.1H	FY10.1H	増減率	
新契約高	18,184	20,684	+13.7%	◆「家族収入保険」の販売が引き続き好調に推移したことなどにより、増加。
解約・失効高	10,605	10,392	▲2.0%	
解約・失効率	3.27%	3.11%	▲0.16pt	
保有契約高	328,975	341,185	+3.7%	◆定期保険を中心に保険商品全般的に解約・失効率が低下。
新契約年換算保険料	320	349	+9.1%	
うち第三分野	77	79	+3.3%	◆養老保険および生前給付保険などの販売好調により、増加。
保有契約年換算保険料	5,584	5,896	+5.6%	
うち第三分野	1,296	1,366	+5.4%	

(億円)	FY09.1H	FY10.1H	増減率	
資産運用損益(一般勘定)	426	654	+53.3%	◆債券の入れ替えにともなう有価証券売却益や、利息及び配当金等収入の増加により、増加。
基礎利益	285	268	▲6.1%	
逆ざや額	88	41	▲53.4%	◆保険料等収入および利息及び配当金等収入が増加したものの、変額保険の最低保証にかかる責任準備金が前年同期の戻入から当上半期は繰入に転じたことなどにより、減少。

	09.9末	10.3末	10.9末	前年度末比
ソルベンシー・マージン比率	2,433.8%	2,637.3%	2,992.8%	+355.5pt

(注) 新契約高、解約・失効高、解約・失効率、保有契約高、新契約年換算保険料、保有契約年換算保険料は、個人保険と個人年金保険の合計。解約・失効率は、復活契約を失効と相殺せずに算出している。

※金額は単位未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

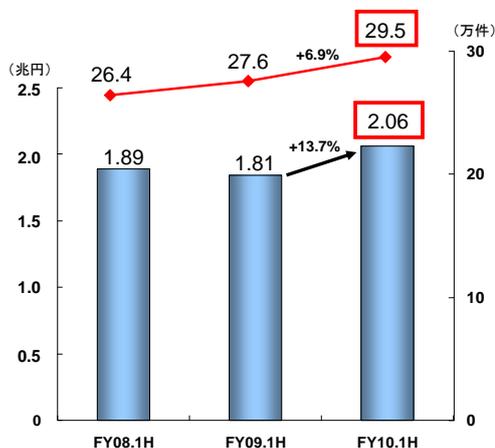
このスライドでは、ソニー生命の主要業績指標を記載しております。

続きまして、次のスライド6をご覧ください。

ソニー生命の業績(1)

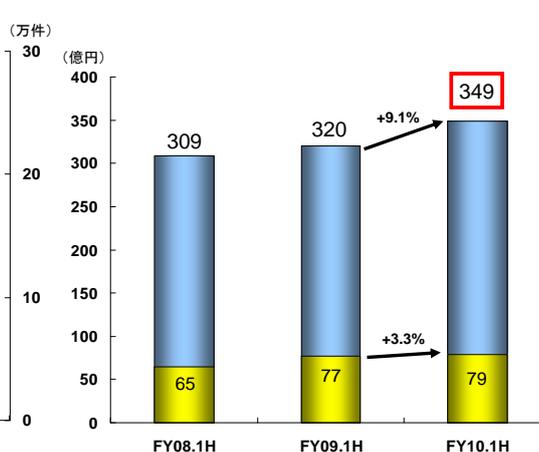
新契約高・件数 (個人保険+個人年金保険)

■新契約高 ◆新契約件数



新契約年換算保険料 (個人保険+個人年金保険)

■新契約年換算保険料 ■うち、第三分野



※新契約高は百億円未満切捨て、新契約年換算保険料は億円未満切捨て、件数は千件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

(左側のグラフ)

棒グラフで示しております、個人保険と個人年金保険を合計した新契約高は、前年同期に比べ**13.7%**増加し、**2兆600億円**となりました。

昨年11月に発売した「家族収入保険」の優良体・非喫煙者割引特則の販売が引き続き好調に推移いたしました。

また、折れ線グラフで示しております新契約件数は、前年同期に比べ**6.9%**増加し、**29万5,000件**となりました。

(右側のグラフ)

新契約年換算保険料は、養老保険および生前給付保険などの販売好調により、前年同期に比べ**9.1%**増加し、**349億円**となりました。

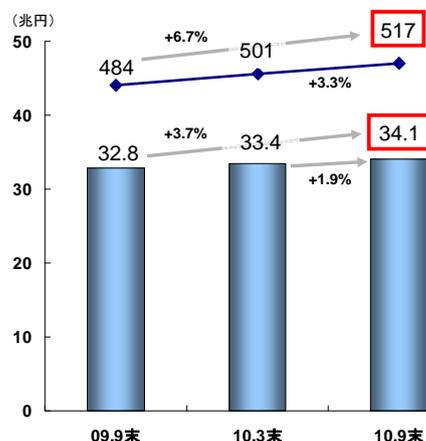
このうち、第三分野は、前年同期に比べ**3.3%**増加し、**79億円**となりました。

(次のスライドをご覧ください)

ソニー生命の業績(2)

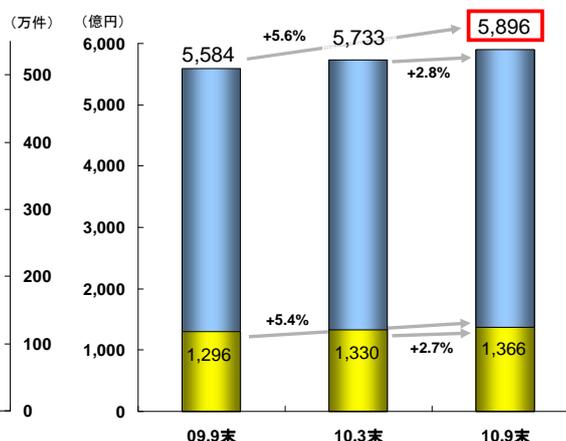
保有契約高・件数 (個人保険+個人年金保険)

■保有契約高 ◆保有契約件数



保有契約年換算保険料 (個人保険+個人年金保険)

■保有契約年換算保険料 ■うち、第三分野



※保有契約高は千億円未満切捨て、保有契約年換算保険料は億円未満切捨て、件数は万件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

(左側のグラフ)

棒グラフで示しております、個人保険と個人年金保険を合計した保有契約高は堅調に推移し、2009年9月末に比べ3.7%増加、2010年3月末に比べ1.9%増加の34兆1,000億円となりました。

折れ線グラフで示しております保有契約件数は、2009年9月末に比べ6.7%増加、2010年3月末に比べ3.3%増加の、517万件となりました。

(右側のグラフ)

保有契約年換算保険料は、2009年9月末に比べ5.6%増加、2010年3月末に比べ2.8%増加の、5,896億円となりました。

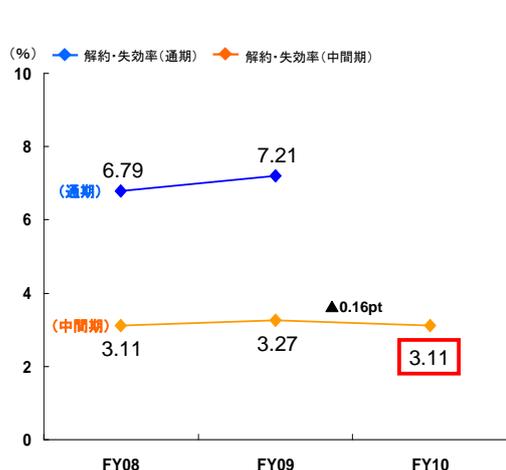
このうち、第三分野は、2009年9月末に比べ5.4%増加、2010年3月末に比べ2.7%増加の、1,366億円となりました。

(次のスライドをご覧ください)

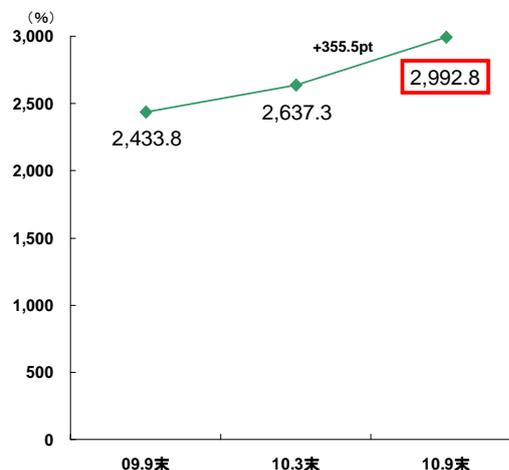
ソニー生命の業績(3)

解約・失効率* (個人保険+個人年金保険) ＜通期および中間期＞

* 解約・失効率は、復活契約を失効と相殺せずに算出



ソルベンシー・マージン比率



(左側のグラフ)

オレンジ色で示しております中間期の解約・失効率は、前年同期に比べ**0.16**ポイント低下し、**3.11%**となりました。当上半期においては、保険商品全般的に解約・失効率が低下いたしました。なお、昨年11月の「家族収入保険」の優良体・非喫煙者割引特則の発売による買い替えを機に上昇した家族収入保険の解約・失効率は、2009年度下半期に比べて低下いたしました。

(右側のグラフ)

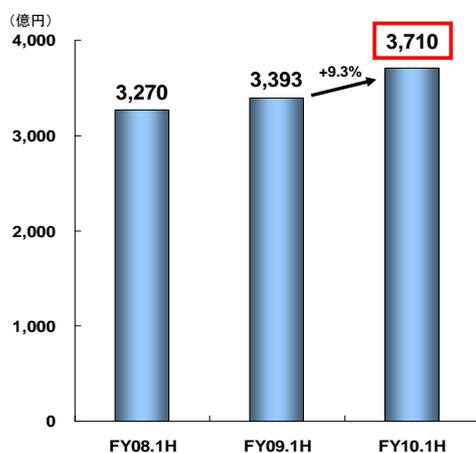
ソルベンシー・マージン比率は、2010年3月末に比べ**355.5**ポイント上昇し、**2,992.8%**となりました。

次のスライド9の、保険料等収入および経常利益につきましては、先のご説明のとおり、いずれも前年同期に比べて増加しております。

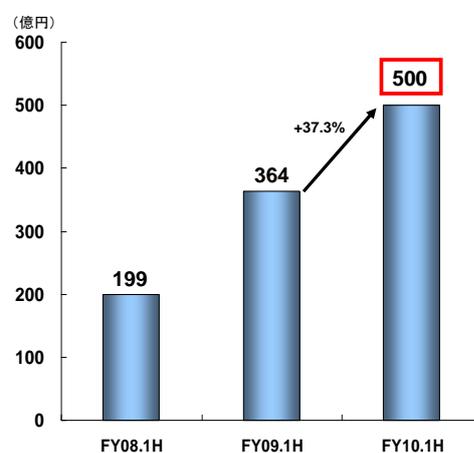
続きまして、スライド10をご覧ください。

ソニー生命の業績(4)

保険料等収入



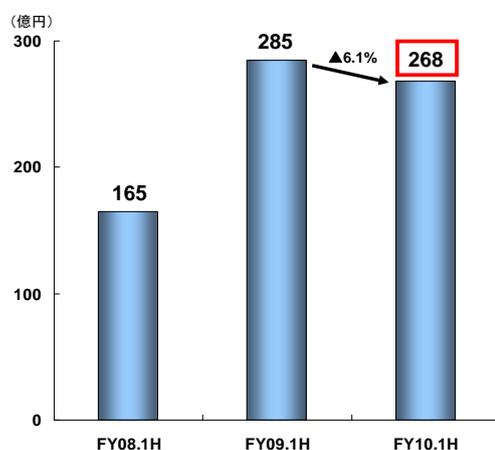
経常利益



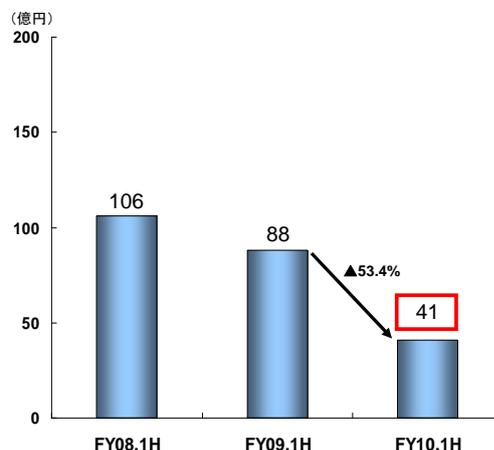
※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー生命の業績(5)

基礎利益



逆ざや額



※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

(左側のグラフ)

基礎利益は、保険料等収入 および 利息及び配当金等収入 が増加したものの、変額保険の最低保証にかかる責任準備金が、前年同期の戻入から当上半期は繰入に転じたことなどにより、前年同期に比べ**6.1%**減少し、**268**億円となりました。

(右側のグラフ)

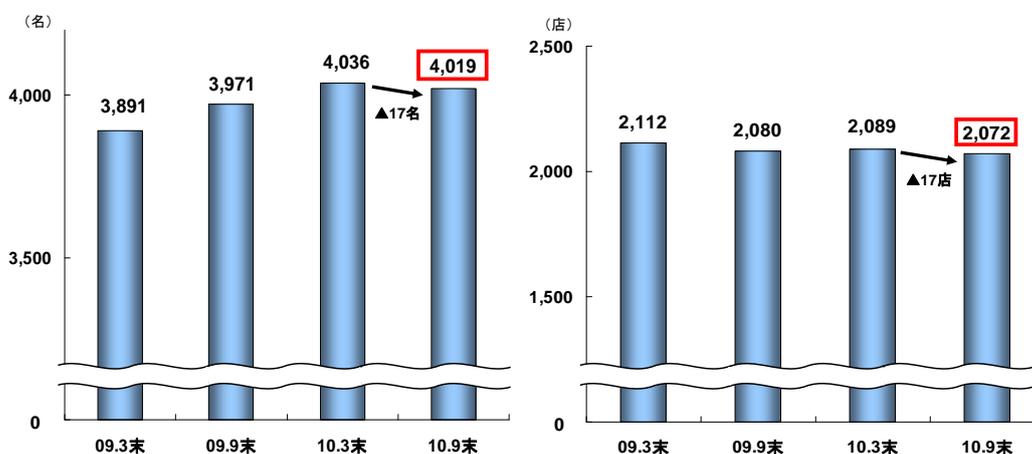
逆ざや額は、利息及び配当金等収入の増加にともない、前年同期に比べ**53.4%**減少し、**41**億円となりました。

(次のスライドをご覧ください)

ソニー生命の業績(6)

ライフプランナー在籍数

代理店数



(左側のグラフ)

ライフプランナー在籍数は、2010年3月末から17名減少し、4,019名となりました。

これは主に、採用基準の厳格化にともなう採用数の減少、および退職者の増加などによるものです。

(右側のグラフ)

代理店数は、2010年3月末から17店減少し、2,072店となりました。

(次のスライドをご覧ください)

一般勘定資産の内訳【実質ベース】

(億円)

	10.3末		10.9末	
	金額	割合	金額	割合
公社債(除く転換社債)	33,104	84.6%	36,250	88.0%
転換社債	132	0.3%	—	—
株式	725	1.9%	632	1.5%
外国証券	752	1.9%	685	1.7%
約款貸付	1,275	3.3%	1,319	3.2%
不動産	799	2.0%	791	1.9%
現預金・コールローン	1,164	3.0%	549	1.3%
その他	1,174	3.0%	976	2.4%
合計	39,129	100.0%	41,206	100.0%

<資産運用状況>	
■公社債: 当第2四半期・・・超長期債購入継続	
↓	
【債券のDuration】	
09.3末	13.6年
10.3末	17.6年
10.9末	19.3年
■転換社債: 2010年9月末時点で残高ゼロ	
■株式: 2010年度は、2008年度に圧縮後の保有比率を維持	

(注)1. ここでは、「金銭の信託」で運用されている有価証券(公社債、転換社債、株式等)を、各運用資産の分類ごとに合算して表示しているため、ソニー生命の発表資料『平成22年度第2四半期(上半期)業績のご報告』の4ページ『(1)資産の構成』における保有区分とは一致しません。

2. 有価証券の保有区分ごとの内訳は29ページを参照。

2010年3月末と比較した、
2010年9月末の一般勘定資産の実質ベースの内訳はご覧のとおりです。

超長期債への投資を推進したことから公社債の割合が高まり、
2010年9月末で88.0%となりました。

一方で、既に圧縮した株式の割合はほぼ横ばいで推移、
転換社債の2010年9月末の残高はゼロとなっております。

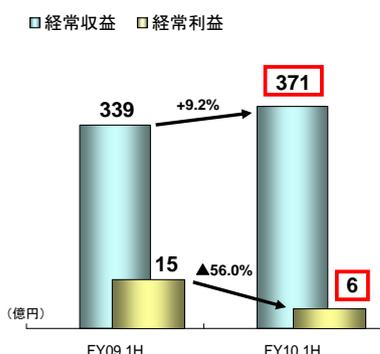
その結果、2010年9月末の債券のデュレーションは19.3年となっております。

なお、2010年9月末時点で、資産負債のデュレーションミスマッチリスクは軽減され、
金利変動による影響も限定的となりました。

今年度下半期以降も、引き続き新規資金の大半を超長期債に投資する予定ですが、
一定の範囲で株式や外国債券などへの投資も検討してまいります。

(次のスライドから、ソニー損保の業績についてご説明いたします)

ソニー損保 業績ハイライト



- ◆ 前年同期比 増収減益。
- ◆ 自動車保険を中心に保有契約件数が増加し、正味収入保険料が増加したことにより、経常収益は増加。
- ◆ 経常収益が増加したものの、自動車事故発生率の上昇にともない自動車保険の保険金支払いが増加したことなどにより、経常利益は減少。

(億円)	FY09.1H	FY10.1H	前年同期比	
経常収益	339	371	+31	+9.2%
保険引受収益	336	367	+30	+9.2%
資産運用収益	3	3	+0	+8.9%
経常費用	324	364	+39	+12.2%
保険引受費用	245	279	+33	+13.8%
資産運用費用	0	—	▲0	▲100.0%
営業費及び一般管理費	78	84	+5	+7.5%
経常利益	15	6	▲8	▲56.0%
中間純利益	10	3	▲6	▲62.2%

(億円)	09.9末	10.3末	10.9末	前年度末比	
責任準備金残高	554	581	623	+42	+7.3%
純資産額	148	154	158	+4	+2.6%
その他有価証券評価差額金	0	0	0	+0	+49.3%
総資産額	933	983	1,039	+56	+5.7%

※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー損保の経常収益は、前年同期に比べ**9.2%**増加し、**371億円**となりました。これは主力の自動車保険を中心に保有契約件数が増加し、正味収入保険料が増加したことによるものです。

経常利益は、前年同期に比べ**56.0%**減少し、**6億円**となりました。これは、経常収益は増加したものの、事故発生率上昇の影響で自動車保険の保険金支払いが増加したことなどによるものです。

以上の結果、中間純利益は、前年同期に比べ**62.2%**減少し、**3億円**となりました。

(次のスライドをご覧ください)

ソニー損保 主要業績指標

(億円)	FY09.1H	FY10.1H	前年同期比	
元受正味保険料	334	364	+8.8%	◆自動車保険の保有契約件数の増加により増加。
正味収入保険料	336	367	+9.2%	
正味支払保険金	161	190	+17.6%	◆自動車事故発生率の上昇の影響により増加。
保険引受利益	12	3	▲70.9%	
正味損害率	54.0%	58.2%	+4.2pt	
正味事業費率	25.2%	24.7%	▲0.5pt	◆保険引受に係る事業費が増加するも、正味収入保険料の増加により低下。
コンバインド・レシオ	79.2%	83.0%	+3.8pt	

(注) 正味事業費率=保険引受に係る事業費÷正味収入保険料
 正味損害率=(正味支払保険金+損害調査費)÷正味収入保険料

<主な増減要因>

	09.9末	10.3末	10.9末	前年度末比	
保有契約件数	122万件	127万件	133万件	+5万件	+4.5%
ソルベンシー・マージン比率	1,033.6%	1,018.5%	1,010.3%	▲8.2pt	

(注) 保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合算値。両方で正味収入保険料の99%を占める。

※金額は億円未満切捨て、件数は万件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

このスライドでは、ソニー損保の主要業績指標を記載しております。

次のスライド15には、元受正味保険料、正味収入保険料、正味支払保険金の種目別内訳を記載しておりますのでご覧ください。

続きまして、スライド16から詳細をご説明いたします。

ソニー損保 種目別保険引受の状況

元受正味保険料

(百万円)	FY09.1H	FY10.1H	増減率
火 災	137	71	▲47.6%
海 上	—	—	—
傷 害*	3,442	3,551	+3.1%
自 動 車	29,868	32,783	+9.8%
自 賠 責	—	—	—
合計	33,448	36,406	+8.8%

正味収入保険料

(百万円)	FY09.1H	FY10.1H	増減率
火 災	6	3	▲44.0%
海 上	7	6	▲6.0%
傷 害*	3,563	3,679	+3.3%
自 動 車	29,752	32,648	+9.7%
自 賠 責	291	369	+26.8%
合計	33,620	36,707	+9.2%

正味支払保険金

(百万円)	FY09.1H	FY10.1H	増減率
火 災	0	0	▲26.4%
海 上	1	7	+393.5%
傷 害*	705	776	+10.1%
自 動 車	15,216	17,927	+17.8%
自 賠 責	258	319	+23.9%
合計	16,181	19,031	+17.6%

* 「傷害」にはガン重点医療保険SURE(シュア)が含まれる。

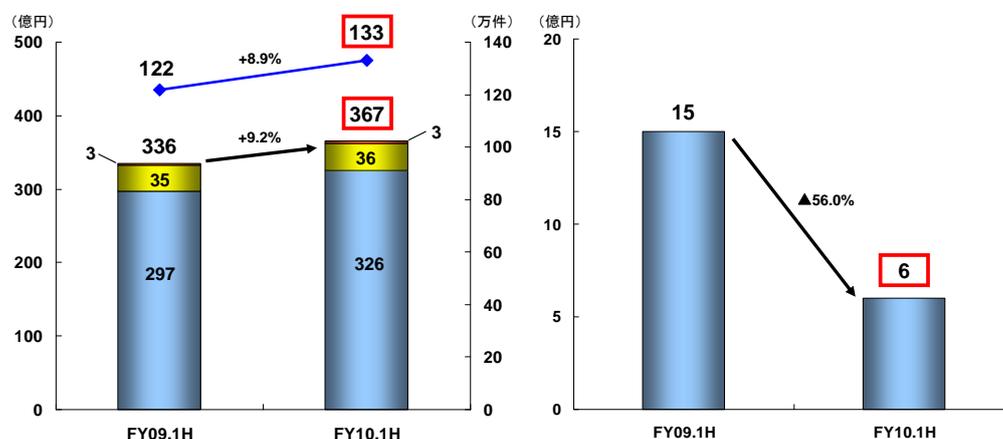
※金額は百万円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー損保の業績(1)

正味収入保険料と保有契約件数

経常利益

■ 自動車保険 ■ 傷害保険 ■ その他
◆ 保有契約件数



(注) 保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合算値。
両方で正味収入保険料の99%を占める。
傷害保険の9割以上が、ガン重点医療保険である。

※金額は億円未満切捨て、件数は万件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

(左側のグラフ)

保有契約件数は順調に増加し、自動車保険とガン重点医療保険との合計で前年同期に比べ**8.9%**増加し、**133**万件となりました。

正味収入保険料は前年同期に比べ**9.2%**増加し、**367**億円となりました。

(右側のグラフ)

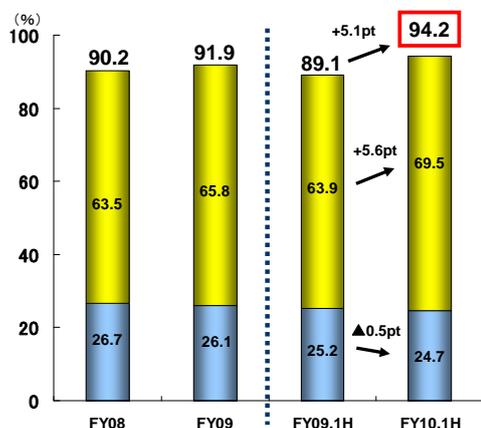
経常利益は、先のご説明のとおり、前年同期に比べて減少しております。

(次のスライドをご覧ください)

ソニー損保の業績(2)

正味事業費率+E.I.損害率

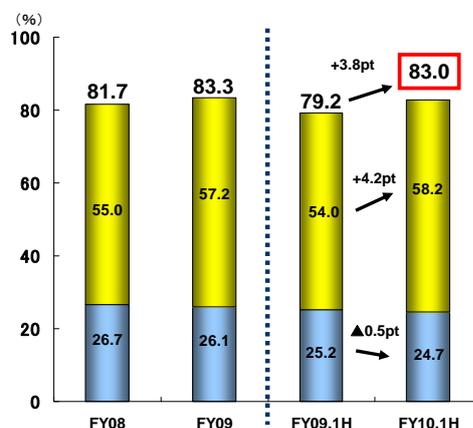
■正味事業費率 ■E.I.損害率



(注) 正味事業費率=保険引受に係る事業費÷正味収入保険料
E.I.損害率=(正味支払保険金+支払備金積増額+損害調査費)÷既経過保険料
[除く地震保険、自賠責保険]

<参考> コンバインド・レシオ (正味事業費率+正味損害率)

■正味事業費率 ■正味損害率



(注) 正味事業費率=保険引受に係る事業費÷正味収入保険料
正味損害率=(正味支払保険金+損害調査費)÷正味収入保険料

(左側のグラフ)

成長段階にあるソニー損保の実態をご理解いただくために、スライドでE.I.損害率と記載しております、損害率を発生ベースでみたアード・インカード損害率についてご説明いたします。

E.I.損害率は、事故発生率の上昇などにより保険金支払いが増加し、前年同期に比べ5.6ポイント上昇し、69.5%となりました。

また、正味事業費率は、正味収入保険料の増加などにより、前年同期に比べ0.5ポイント低下し、24.7%となりました。

(右側のグラフ)

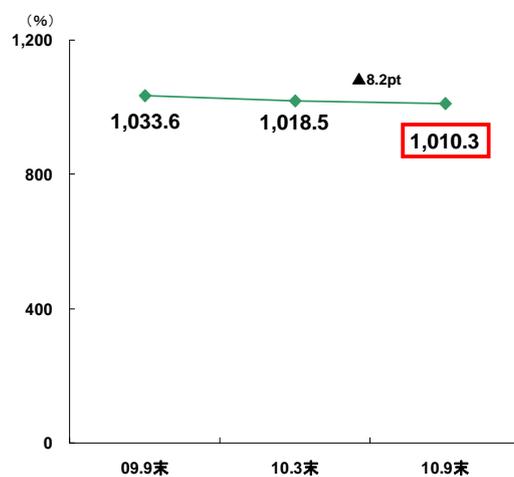
正味損害率は、前年同期に比べ4.2ポイント上昇し、58.2%となりましたが、これは前述のとおり、主に保険金支払いの増加によるものです。

なお、正味損害率は、支払備金繰入額などを反映していない点で、E.I.損害率とは計算方法が異なります。

正味事業費率と正味損害率を合わせたコンバインド・レシオは、前年同期に比べ3.8ポイント上昇し、83.0%となりました。

(次のスライドをご覧ください)

ソルベンシー・マージン比率



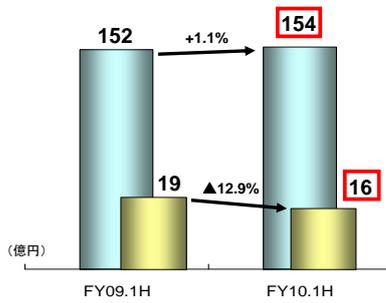
ソルベンシー・マージン比率は、
2010年3月末に比べ8.2ポイント低下し、1,010.3%となりましたが、
引き続き健全な水準を維持しております。

(次のスライドから、ソニー銀行の業績についてご説明いたします)

ソニー銀行 業績ハイライト(単体)



□ 経常収益 □ 経常利益



- ◆ 前年同期比 経常収益はほぼ横ばい、経常利益は減少。
- ◆ 業務粗利益は、その他業務収支の増加により、前年同期比6億円増加。
【資金運用収支】住宅ローンなど貸出資産の増加により貸出金利息は順調に増加したものの、市場金利低下の影響により減少。
【その他業務収支】主に市場運用にかかる損益が改善したことから、9億円増加。
- ◆ 業務純益は、営業経費が前年同期比6億円増加したことから、2億円の減少。
- ◆ 預かり資産残高は前年度末比735億円増加。うち預金残高は747億円の増加。

(億円)	FY09.1H	FY10.1H	前年同期比	
経常収益	152	154	+1	+1.1%
業務粗利益	77	83	+6	+7.8%
資金運用収支	65	63	▲2	▲3.6%
役務取引等収支	0.1	▲0.7	▲0.8	—
その他業務収支	11	20	+9	+81.6%
営業経費	56	63	+6	+12.2%
経常利益	19	16	▲2	▲12.9%
中間純利益	11	8	▲2	▲19.5%
業務純益	21	18	▲2	▲11.9%

(億円)	09.9末	10.3末	10.9末	前年度末比	
有価証券残高	8,045	8,801	9,583	+781	+8.9%
貸出金残高	5,343	5,866	6,364	+497	+8.5%
預金残高	13,348	15,100	15,848	+747	+5.0%
預かり資産残高	14,313	16,100	16,836	+735	+4.6%
純資産額	574	589	583	▲6	▲1.1%
その他有価証券評価差額金	▲0	9	11	+2	+32.6%
総資産額	14,451	16,121	17,007	+885	+5.5%

※金額は億円未満切捨て(役務取引等収支を除く)、増減率は四捨五入で表示

ソニー銀行単体の経常収益は、住宅ローン残高の増加にともない利息収入が増加したことなどにより、前年同期に比べ**1.1%**増加し、**154億円**となりました。

業務粗利益は、前年同期に比べ**7.8%**増加し、**83億円**となりました。これは主に、市場運用にかかる損益が改善し、その他業務収支が増加したことによるものです。

また、営業経費は、システム関連費用等の増加により前年同期に比べ**12.2%**増加し、**63億円**となりました。

以上の結果、経常利益は、前年同期に比べ**12.9%**減少し、**16億円**となりました。

中間純利益は、経常利益が減少したことにより前年同期に比べ**19.5%**減少し、**8億円**となりました。

(次のスライドをご覧ください)

ソニー銀行 主要業績指標(単体)①



(億円)	09.9末	10.3末	10.9末	前年度末比	
預かり資産残高	14,313	16,100	16,836	+735	+4.6%
預金	13,348	15,100	15,848	+747	+5.0%
円預金	10,208	11,849	12,417	+567	+4.8%
外貨預金	3,140	3,250	3,430	+180	+5.5%
投資信託	965	1,000	988	▲11	▲1.2%
貸出金残高	5,343	5,866	6,364	+497	+8.5%
住宅ローン	5,259	5,551	5,813	+262	+4.7%
その他	84	315	550 ^{*1}	+235	+74.6%
口座数	75.0万件	79.6万件	82.8万件	+3.1万件	+4.0%
自己資本比率 (国内基準)^{*2}	13.41%	12.09%	11.76%	▲0.33pt	

<主な増減要因>

◆ 預かり資産残高は2010年3月末比735億円増加。このうち預金残高については747億円増加。外貨預金残高は、円高進行による円換算の影響があるものの180億円増加。

◆ 投資信託は、基準価額の下落の影響もあり残高が減少。

◆ 貸出金残高は、住宅ローン残高の伸びに加え、シンジケート・ローンを中心とした法人向け貸出の増加により、増加。

*1 うち468億円は法人向け

*2 24ページの自己資本比率(国内基準)の推移参照

※金額は億円未満切捨て、件数は千件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

このスライドでは、ソニー銀行の主要業績指標を記載しております。

(次のスライドをご覧ください)

ソニー銀行 主要業績指標(単体)②

<参考> 社内管理ベース

(億円)	FY09.1H	FY10.1H	前年同期比	
業務粗利益	77	82	+5	+7.3%
資金収支 ^{*1} ①	66	72	+5	+9.0%
手数料等収支 ^{*2} ②	6	5	▲1	▲22.4%
その他収支 ^{*3}	4	5	+1	+26.8%
コアベース業務粗利益 (A) = ① + ②	72	77	+4	+6.2%
営業経費等 ③	56	64	+8	+15.1%
コアベース業務純益 = (A) - ③	16	12	▲3	▲23.8%

■ 社内管理ベース

損益の実態をより適切に表すよう、財務会計ベースに以下の調整を加えたもの

*1 資金収支 … 資金運用収支 + その他業務収支に計上されている実質的な資金運用にかかる損益(為替スワップ収益等)

*2 手数料等収支 … 役員取引等収支 + その他業務収支に計上されているお客さまとの外貨売買取引にかかる収益

*3 その他収支 … その他業務収支から *1 と *2 の調整を控除したものの主な内容は債券関係損益およびデリバティブ関連損益

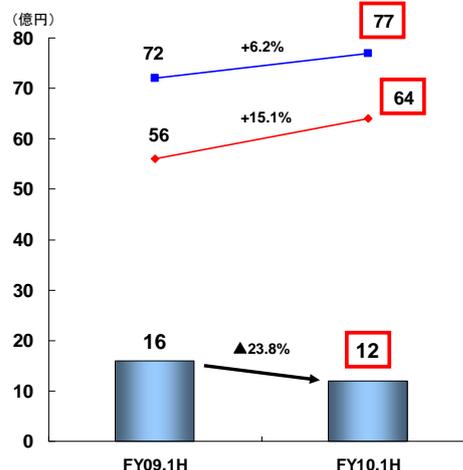
■ コアベース

社内管理ベースの その他収支(主な内容は債券関係損益およびデリバティブ関連損益)を除いたもので、ソニー銀行の基礎的な収益を表すもの

<参考>

コアベース業務粗利益、営業経費等、コアベース業務純益

■ コアベース業務粗利益 ▲ 営業経費等
■ コアベース業務純益



※金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

このスライドでは、本業の収益力をより適切にご理解いただけるよう、社内管理ベースの業務粗利益の内訳についてご説明いたします。

(左側のテーブル)

資金収支は、業容の拡大に加えて、上半期を通して順調に増加した外貨預金にかかる市場運用損益の改善により、前年同期に比べ5億円増加の72億円となりました。

手数料等収支は、外国為替相場の動向を受けてお客さまとの外貨売買取引にかかる収益が減少したことなどにより、前年同期に比べ1億円減少し、5億円となりました。

その他収支においては、長期の市場金利低下の影響で、住宅ローンのヘッジ目的で保有している金融派生商品の評価損が増加したものの、国債等売買益の増加などにより、前年同期に比べ1億円増加の5億円となりました。

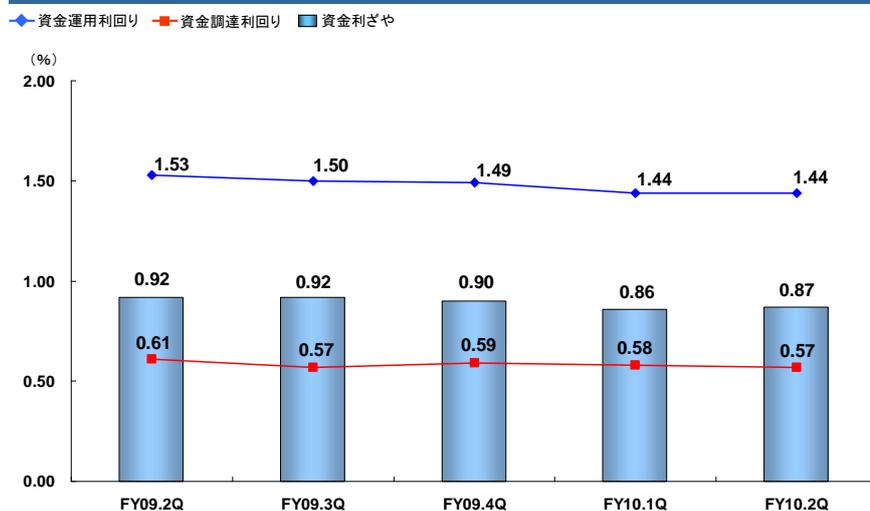
その結果、コアベース業務粗利益は、前年同期に比べ4億円増加し、77億円となりました。

(右側のグラフ)

コアベース業務純益は、営業経費等の増加により、前年同期に比べ3億円減少し、12億円となりました。

(次のスライドをご覧ください)

<参考> 資金利ざや(社内管理ベース)の推移



(注) 資金利ざや = 資金運用利回り - 資金調達利回り
 資金運用利回りには、その他業務収支に計上されている為替スワップ損益等が含まれている。

社内管理ベースの資金利ざやについてご説明いたします。

世界的な金利低下を受けて、
 青い折れ線グラフで示しております資金運用利回りは、
 全体的に低下傾向にあるものの、当第2四半期では横ばいとなりました。

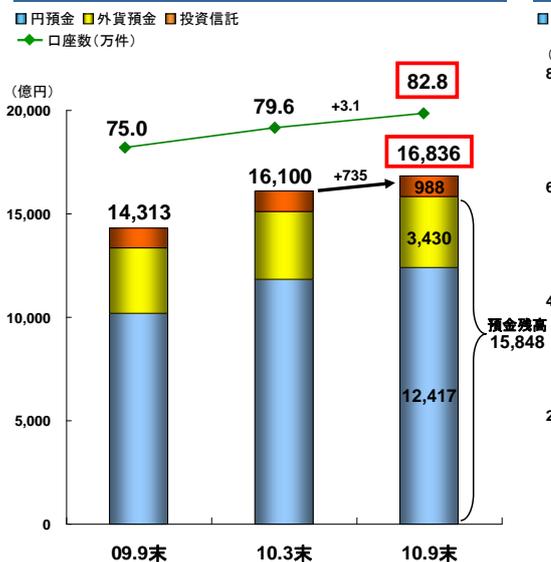
また、赤い折れ線グラフで示しております資金調達利回りも、
 ほぼ横ばいで推移しております。

その結果、棒グラフで示しております資金利ざやは、**0.87%**となりました。

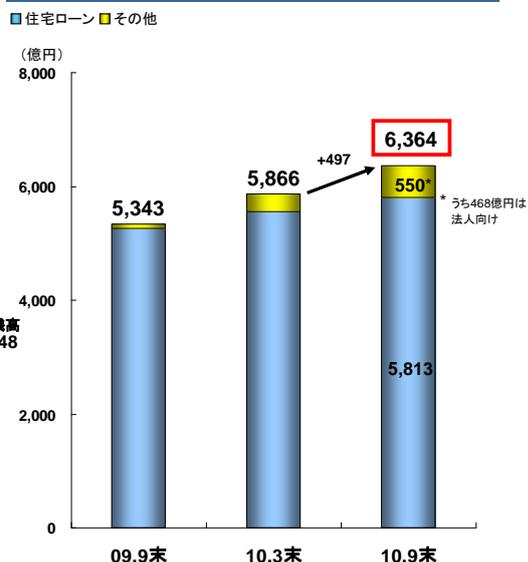
(次のスライドをご覧ください)

ソニー銀行の業績(2)

預かり資産残高(預金+投資信託)および口座数



貸出金残高



※金額は億円未満切捨て、件数は千件未満切捨てで表示

業容の推移についてご説明いたします。

(左側のグラフ)

預金と投資信託を合わせた預かり資産残高は、
2010年3月末に比べ735億円増加し、1兆6,836億円となりました。

預金残高は、2010年3月末に比べ747億円増加し、1兆5,848億円となりました。
このうち、外貨預金の残高は、円換算の際に使用する為替レートが
大きく円高にふれたものの、180億円の増加となりました。

投資信託の残高は、2010年3月末に比べ11億円減少し、988億円となりました。
また、口座数は3万1千件増加し、82万8千件となりました。

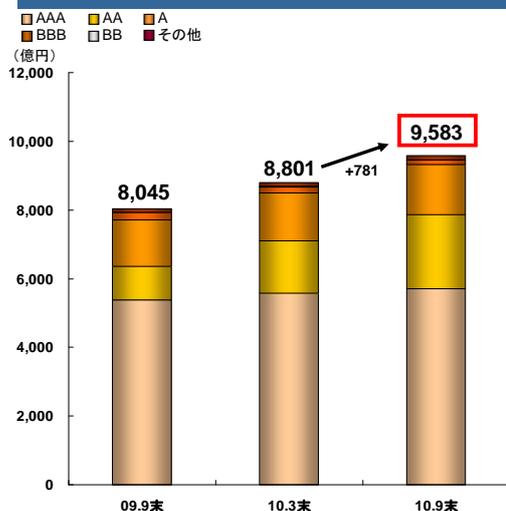
(右側のグラフ)

貸出金残高については、住宅ローンおよび法人向け貸出の積みあがりにより、
2010年3月末に比べ497億円増加し、6,364億円となりました。

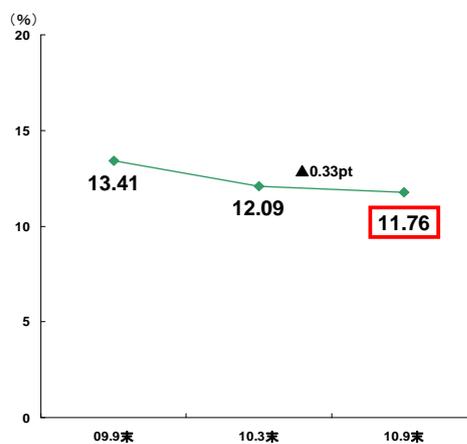
(次のスライドをご覧ください)

ソニー銀行の業績(3)

格付別の有価証券残高の推移



自己資本比率(国内基準)の推移



(注) 平成18年金融庁告示第19号「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準」に基づき算出している。なお、平成21年3月期第3四半期会計期間より「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第19号)の特例(平成20年金融庁告示第79号)」を適用している。

※金額は億円未満切捨てで表示

(左側のグラフ)

2010年9月末の有価証券残高は、2010年3月末に比べ781億円増加し、9,583億円となりました。

引き続き、高格付の債券を中心に運用しております。

(右側のグラフ)

自己資本比率は、2010年3月末に比べ0.33ポイント低下し、11.76%となりましたが、引き続き健全な財務基盤を維持しております。

以上で、3社の業績のご説明を終わります。

次のスライドをご覧ください。

2010年度連結業績予想

(億円)	FY09	FY10 (通期予想)	増減率 FY09 vs FY10(通期予想)
連結経常収益	9,789	9,740	▲0.5%
うち生命保険事業	8,820	8,713	▲1.2%
うち損害保険事業	681	727	+6.6%
うち銀行事業	305	306	+0.3%
連結経常利益	843	740	▲12.3%
うち生命保険事業	797	696	▲12.8%
うち損害保険事業	25	22	▲14.2%
うち銀行事業	19	28	+45.2%
連結当期純利益	481	400	▲16.9%

(注)1. 実績値の金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示
2. 2010年5月13日に発表した通期予想から変更無し

■生命保険事業

当上半期の業績が5月13日発表の予想を上回って推移したものの、下半期は事業費などの増加が見込まれること、また金融市場環境の動向が不透明であることから、当初の通期予想は据え置き。

■損害保険事業

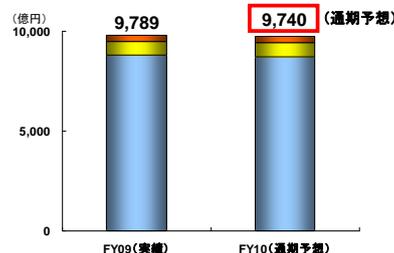
当上半期に続き、下半期も主力の自動車保険を中心に業容が順調に拡大すると見込み、通期の経常収益は前年度比で増加を見込む。損害率の上昇や規模拡大を前提に体制・基礎を強化することによる事業費率の上昇などを引き続き想定し、通期の経常利益は前年度比で減少を見込む。当初の通期予想は据え置き。

■銀行事業

世界的な金利低下の影響下において、業容拡大による資金運用収益の増加を見込み、通期の経常収益は前年度比で若干の増加を見込む。資金運用収支を中心に業務粗利益の増加を想定し、通期の経常利益は前年度比で増加を見込む。当初の通期予想は据え置き。

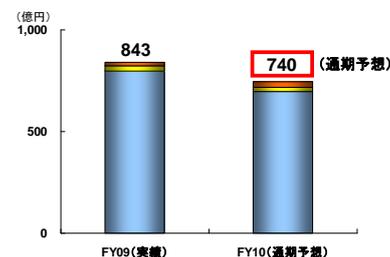
連結経常収益

■ 生保事業 ■ 損保事業 ■ 銀行事業



連結経常利益

■ 生保事業 ■ 損保事業 ■ 銀行事業



2010年度の連結業績予想についてご説明いたします。

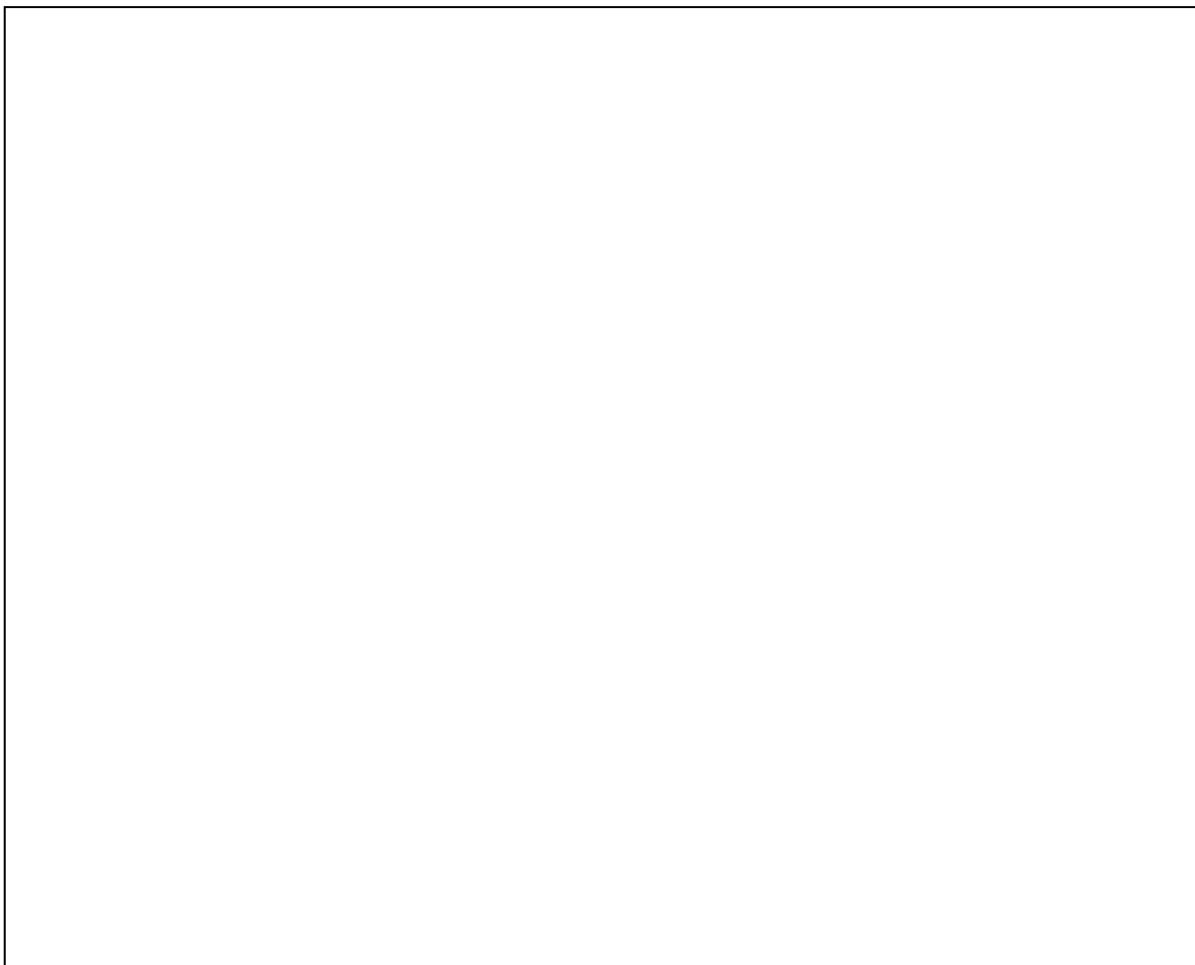
当上半期に、主に生命保険事業において、5月13日に連結業績予想を発表した時点での想定を上回る有価証券売却益を計上したことから、10月29日に中間の連結業績予想を上方修正いたしました。

一方、通期の連結業績予想につきましては、各事業とも業容を順調に拡大していくと見込んでいたものの、下半期以降の金融市場の動向が不透明であることなどから、修正いたしません。

以上で、ご説明を終わります。

ありがとうございました。

補足情報



ソニーライフ・エイゴン生命の営業状況

営業開始：2009年12月1日

資本金：200億円(資本準備金100億円を含む)

株主：ソニー生命 50%、エイゴン・インターナショナルB.V. 50%

取扱商品：「ウイニングロード(変額個人年金保険 受取総額保証型)」、「マイヒストリー(変額個人年金保険 受取総額保証型)」
および「ヴィクトリーラン(変額個人年金保険 年金原資保証型)」

販売チャネル：ライフプランナーおよび銀行(東京スター銀行、三井住友銀行、みなと銀行、福島銀行、千葉興業銀行) ※2010年11月15日現在

販売状況：2010年9月中間期の実績・・・新契約件数:352件、新契約高:3,401百万円
(2010年9月末・・・保有契約件数:802件、保有契約高:9,999百万円)



ソニー銀行における、ソニー生命による住宅ローンの取り扱い状況

■2010年9月中間期の住宅ローン新規融資実行金額の38%

※銀行代理業務取り扱い開始：2008年1月



ソニー損保における、ソニー生命による自動車保険取り扱い状況

■2010年9月中間期の新規自動車保険契約件数の約5%

※自動車保険取り扱い開始：2001年5月




<2010年度第2四半期以降の主な取り組み>

- 2010年 7月12日 ソニーライフ・エイゴン生命、千葉興業銀行を代理店とする変額個人年金保険の販売を開始
- 2010年 7月26日 ソニー銀行、「外貨宅配」サービスを開始
- 2010年 9月13日 ソニー銀行、住宅ローンの取り扱い物件に「中古マンション」を追加
- 2010年 9月16日 ソニー生命、横浜市青葉台に『LIPLA』第2号店をオープン
- 2010年10月 4日 ソニー銀行、オークラヤ住宅㈱との提携住宅ローンを開始
- 2010年11月 2日 ソニー生命、新商品『終身介護保障保険(低解約返戻金型)・介護一時金特約』を発売
『逓減定期保険・逓減定期保険特約』への『優良体・非喫煙者割引特則』の適用開始
- 2010年11月 8日 ソニー銀行、投資信託の分配金受け取りサービスを開始

有価証券の時価情報

売買目的有価証券を除く有価証券の時価情報のうち、時価のあるもの

(億円)

区 分	09.9末			09.12末			10.3末			10.6末			10.9末		
	帳簿価額	時 価	差損益	帳簿価額	時 価	差損益	帳簿価額	時 価	差損益	帳簿価額	時 価	差損益	帳簿価額	時 価	差損益
満期保有目的の債券	17,778	17,824	46	20,074	19,995	▲79	22,756	22,551	▲204	24,779	28,266	1,507	28,186	30,402	2,216
その他の有価証券	14,184	14,706	521	13,059	13,582	523	11,265	11,668	404	10,398	10,978	580	8,588	9,139	550
公 社 債	13,250	13,698	448	12,168	12,620	452	10,815	10,900	84	9,738	10,303	565	7,948	8,485	538
(うち転換社債)	1,596	1,588	▲27	775	784	9	136	132	▲3	-	-	-	-	-	-
株 式	407	484	77	516	581	65	517	621	104	519	532	12	518	529	11
外 国 証 券	474	460	▲14	323	316	▲7	80	80	▲0	20	20	0	-	-	-
そ の 他 の 証 券	51	61	9	51	63	12	51	67	15	119	121	2	121	123	1
合 計	31,962	32,530	568	33,134	33,578	443	34,021	34,221	199	35,178	37,265	2,087	36,775	39,541	2,766

売買目的有価証券の評価損益

(億円)

09.9末		09.12末		10.3末		10.6末		10.9末	
BS計上額	PL評価損益	BS計上額	PL評価損益	BS計上額	PL評価損益	BS計上額	PL評価損益	BS計上額	PL評価損益
7	56	3	56	-	57	-	-	-	-

(注) 上記の売買目的有価証券は、「金銭の信託」に含まれているものも含む。

※金額は億円未満切捨てで表示

ソニー生命の純資産(指標別)の明細

純資産(BS上)／実質資産負債差額／ソルベンシー・マージン

	①純資産(BS上)		②実質資産負債差額		③ソルベンシー・マージン		備考
	10.3末	10.9末	10.3末	10.9末	10.3末	10.9末	
株主資本合計	1,773	1,993	1,773	1,993	1,703	1,979	③社外流出予定額控除後
その他有価証券評価差額金	154	246	154	246	—	—	
その他有価証券の含み損益	—	—	—	—	330	460	③税引前の90%
土地再評価差額金	▲14	▲14	▲14	▲14	—	—	
価格変動準備金	—	—	96	130	96	130	
危険準備金	—	—	484	501	484	501	
一般貸倒引当金	—	—	—	—	0	0	
土地の含み損益	—	—	26	26	16	16	②税引前(再評価後) ③税引前(再評価前)の85%
全期テメル式責任準備金 相当額超過額	—	—	3,165	3,228	3,165	3,228	
配当準備金未割当部分	—	—	23	31	23	31	
将来利益	—	—	—	—	10	10	
税効果相当額	—	—	—	—	472	636	
満期保有債券の含み損益	—	—	▲204	2,216	—	—	②税引前
その他有価証券に係る 繰延税金負債	—	—	128	183	—	—	
合計	1,913	2,224	5,634	8,544	6,302	6,995	

(注)「②実質資産負債差額」において、満期保有・責任準備金対応債券の含み損益を含まない場合の合計値は、10.3末:5,838億円、10.9末:6,327億円。

※金額は億円未満切捨てて表示

ソニー生命のソルベンシー・マージン比率の推移

(億円)					
項目	09.9末	09.12末	10.3末	10.6末	10.9末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	6,007	6,256	6,302	6,666	6,995
資本金等	1,529	1,633	1,703	1,799	1,979
価格変動準備金	63	79	96	112	130
危険準備金	469	478	484	492	501
一般貸倒引当金	0	0	0	0	0
その他有価証券の評価差額×90%(マイナスの場合100%)	416	430	330	484	460
土地の含み損益×85%(マイナスの場合100%)	48	48	16	16	16
全期テレルメル式責任準備金相当額超過額	3,094	3,128	3,165	3,193	3,228
配当準備金未割当部分	3	17	23	27	31
将来利益	-	-	10	10	10
税効果相当額	381	440	472	529	636
負債性資本調達手段等	-	-	-	-	-
控除項目	-	-	-	-	-
リスクの合計額 $\sqrt{(R_1+R_6)^2+(R_2+R_3+R_7)^2}+R_4$ (B)	493	486	477	474	467
保険リスク相当額 R1	188	190	191	194	196
第三分野保険の保険リスク相当額 R6	71	71	70	71	72
予定利率リスク相当額 R2	112	113	113	114	114
資産運用リスク相当額 R3	214	202	189	179	166
経営管理リスク相当額 R4	13	13	12	12	12
最低保証リスク相当額 R7	76	78	80	83	86
ソルベンシー・マージン比率 (A)/(1/2×(B))×100	2,433.8%	2,570.9%	2,637.3%	2,810.0%	2,992.6%

※金額は億円未満切捨てて表示



お問い合わせ先:
ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社 広報・IR部
TEL: 03-5785-1074